



秋が少しずつ深まって来ています。先日の台風は日本列島各地に影響を及ぼしていきましたが、皆さんの地域は大丈夫だったでしょうか。幸い南阿蘇は大きな被害もなく、また、我が家の稲刈りも終了していたので、むしろ台風のおかげで心も体も休ませることができました。

さて収穫が終わってみると、それまでのきつかった作業もホッと一息。何のことはなかったかのように感じるから不思議なものです。全ての刈り取りが終わり、ライスセンターという水分調整&モミ殻を外す施設から30kg入りの袋に入って戻ってこない、今年の収量が分からないため、先月の時点では凶作なのか、平年並みなのか、わからない状態でした。日照不足のため、豊作はまずない、ということだけは分かっていたのですが。さて気になる結果です…。「平年並みよりちょっと少なめ」。でした。今夏の天候不順やイノシシの被害を思うと、「若干」の減収で済んだのは御の字です。正直、ホッとしました。作付の無農薬への切替が増えているため、全体量としては皆さんからご予約を頂いている分を確保したうえで、まだ余裕のある状況となっております。どうぞモリモリ食べて、またお歳暮やお祝いにもぜひご利用いただければ幸いです。平成26年産のお米もどうぞご最頂にお願いいたします!!

唐突ですが、ワタクシ、えりは9月下旬から10月初めまでデンマークに行っておりました。目的は、デンマークの再生可能なエネルギー事情を視察することで、私は通訳としてのお役目も頂いたため、稲刈りが終わらないうちに日本を離れてしまいました。代わりに活躍してくれたのが20代の若者たち。研修生クンシヤ、仙台から近所に移住してきた「田舎暮らし希望者」のコーキとその友人。さらに春先から2か月ほどO2Farmに滞在していたイスラエル人のローマンがまた戻ってきてくれたのです！今回は、就学ビザを取得して来ているので、最低でも2年間の滞在予定。彼としてはその間に日本の女性と結婚して、ずっと日本にいたいそうです(笑)。20代前半の彼らが助っ人として頑張ってくれたからこそ、今年の稲刈りはすべて無事に終了したのです。若い人が集まってきてくれるというのは本当に嬉しいこと。そしてとても頼もしいです！



続いて、デンマークの報告もさせて下さい。再生可能なエネルギーと農業とは直接関係ないように見えるかもしれませんが、「農家が食べ物もエネルギーもつくれるようになりたい」というのは、私が就農した当時からの大きな夢です。私たち夫婦が留学していたドイツでは、農家が農産物に加えて電気を売ることが当たり前の社会で、学生だった私は大きな衝撃を受けました。しかも、農産物の価格は変動するのに対し、売電価格は20年間保証されていて、農家の収入を安定化させることにもつながっていたのです。チェルノブイリ原発事故をき



っかけにして再生可能なエネルギーを増やそうとしてきた政策が既に形になっていたのです。デンマークの場合はさらに歴史が古く、'70年代のオイルショックを境に、国をあげて再生可能なエネルギーの普及に努めてきました。なぜなら、ほとんど全てのエネルギー資源を輸入に頼っていた事の危うさに気づいたからです。デンマークは「2050年までに化石燃料を全く使わない国になる」ことを目指しており、世界のトップランナーとして積極的な政策を進めています。

果てしなく広い 1 枚の畑を悠々と耕していく大きな大きなトラクター。1 往復するのに何時間かかるんだろう？と思ってしまうあたり、私もすっかり業界人です(笑)。大量にとれる穀物類のワラは、貴重な資源として大きなボイラーで燃やされ、高温のお湯は近隣の施設や家庭にパイプで運ばれます。届いた「熱」を必要なだけ家庭内に取り込み、給湯や暖房に利用します。もちろん、間伐材のチップを使っている施設もありましたが、デンマークは森林が少ないので、もっとも手近な資源がワラ、ということだそうです。



デンマーク滞在の最終日に、現役の環境大臣さんとお会いすることができました。今回の視察は、デンマーク大使館による企画。大使館の方も日本から同行して下さったので、通訳を分担することができて非常にありがたかったです。通訳はとても神経を使いますから、何か所も訪ねると集中力が切れることがあります。そんな時、もう1人通訳ができる人がいるとこんなに負担が減るんだ、とつくづく感じたものです。



帰国したら帰国したで多忙な毎日。放牧して育てた健康な牛の赤身肉をもっと広めよう！という趣旨の協議会に参加したり、農村に外国人を呼び込んで日本の田舎の良さを知ってもらおう！という趣旨のセミナーに講師として呼ばれたり…。耕太はと言えば、我が家の稲刈りが終わった後に、牛のエサ用にワラを集めて収納、牧草の種も蒔きました。それから「うちのも刈ってくれ」という親戚やご近所さんから頼まれた分の稲刈り作業をし、体も神経もお疲れ状態。台風がくれた「何もできない2日間」は、久しぶりの休日となりました。

今月下旬には、4回目となる「こづみカフェ」を企画中です。稲刈り後の田んぼを開放して、子供は阿蘇五岳を背景に思い切り自由に遊び、大人はそれを見ながらお茶や軽食を頂く。そんな夢のようなオープンカフェなんです。遠方からお越しいただくのは難しいでしょうが、もしもご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひいらしてくださいね！お米の発送作業が終わったら、準備に入ります。開催期間中に、近所のお年寄りから竹細工やわら細工の実演もしてもらおうと思っています。



阿蘇ではここ数日でぐんぐん気温が下がってきているので、少し焦りながら冬支度をしています。季節の変わり目に体調を崩されませんよう、どうぞご自愛くださいませ。